

第71期 報告書

令和6年7月1日 ▶ 令和7年6月30日

目次

財務ハイライト／主要経営指標	P1
INTERVIEW	P2・P3
TOPICS 「イベント開催・出展」	P4
財務諸表	P5
株主還元／株式の概要／会社情報	P6
シリーズ企画／株主メモ	P7

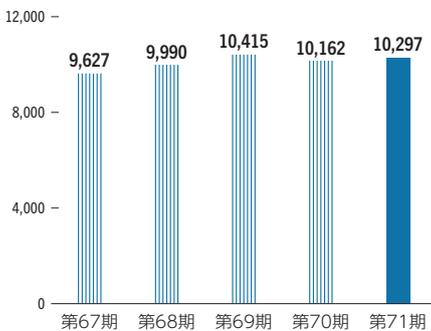
財務ハイライト

第71期 POINT

第71期の業績につきましては、売上高は102億97百万円(前期比1.3%増)、経常利益は5億61百万円(前期比50.9%増)、当期純利益は3億90百万円(前期比53.5%増)となりました。

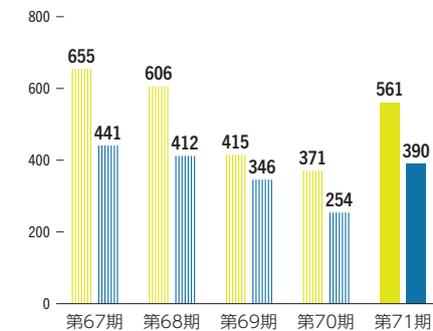
売上高

(単位：百万円)



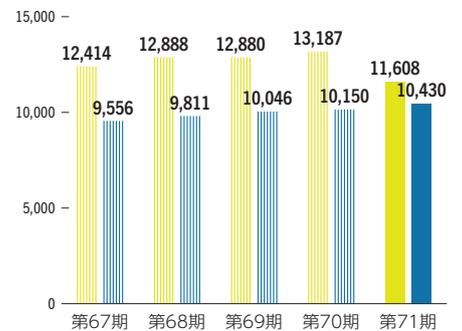
経常利益／当期純利益

(単位：百万円)



総資産／純資産

(単位：百万円)



主要経営指標

		第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
売上高営業利益率	(%)	6.6	5.8	3.6	3.3	5.0
総資本営業利益率(ROA)	(%)	5.2	4.6	2.9	2.6	4.2
自己資本利益率(ROE)	(%)	4.7	4.3	3.5	2.5	3.8
流動比率	(%)	298.4	296.4	300.1	284.9	654.4
固定比率	(%)	51.9	49.7	49.2	50.9	51.0
自己資本比率	(%)	77.0	76.1	78.0	77.0	89.9
1株当たり純資産額	(円)	2,395.3	2,459.2	2,518.1	2,544.1	2,614.3
1株当たり当期純利益	(円)	110.6	103.3	86.9	63.8	98.0
期末株価	(円)	1,472	1,450	1,161	1,366	1,466
株価純資産倍率(PBR)	(倍)	0.61	0.59	0.46	0.54	0.56

第12次中期経営計画の初年度は 利益面は明らかに改善傾向を示しており、 高収益型企業への回帰に向けて 経営基盤の強化に確かな手応えを感じています。

第71期の取り組みと業績について

市場ニーズに対応した商品を拡充。
国内外の展示会を開催・出展するとともに、
会計、受発注・管理システムを更新しました。

◎ 第71期の経営環境について

第71期の住宅市場におきましては、住宅ローン減税の拡充や省エネ住宅への補助金制度など、政府による各種住宅取得支援政策が下支えしたことに加えて、令和7年4月から新築建築物に省エネ基準への適合が義務化されることから3月に一時的な駆け込み着工の動きが見られました。その一方で、建築資材コストや製造・輸送に係るエネルギーコストの高止まり等を要因とする建設コストの増加が継続し、建設業界の慢性的な人手不足といった深刻な課題に加えて、日銀の金融緩和政策の転換に伴う住宅ローン金利上昇に対する懸念などから、住宅需要を抑制する状況が続きました。これらの結果、新設住宅着工戸数は低調な推移を示すなど、住宅業界を取り巻く環境は依然として先行き不透明感が拭えず、本格的な市場の回復にはいまだ至らない水準で推移いたしました。

◎ 第71期の戦略別取り組みと業績について

このような状況の下、当社は「持続的成長に向けた新たな付加価値の創出」を基本方針とする第12次中期経営計画（第71期～第73期）をスタートし、新たな成長基盤の構築に向けて施策を推進しました。

商品戦略につきましては、お客様のご要望に速やかに対応し、より現場主義に徹した柔軟で機動力のある商品開発を目指して当社独自の機能を内包したソフトクローズ関連商品を拡充したほか、3枚引戸をスムーズに連動させて開閉できる「シンクロ連動引戸金具SU-101」を新たに設定しました。また、滑らかな動きで折りたためる「ダンパー付き折りたたみ棚受 (legarie)」、開き戸・引戸のどちらにも使えて部屋の換気が容易にできる「室内用可動ルーバー」など、裾野の広い商品を開発しました。このほか、「アトムCSタワー（東京・新橋ショールーム）」内にホテルの客室をイメージし



た空間を設けて商品の使用例や家具商材を追加提案するなど、市場ニーズに対応した商品の拡充と市場への定着を目指した活動に注力しました。

一方、市場戦略につきましては、金物卸売業界の流通ルートの整備に取り組むとともに、令和7年4月にはアトムCSタワーにて「春の新作発表会2025 in東京」を開催、併せて総合カタログ「ATOM-DATA-LINE(2025-2027)」を発刊して新たな商品展開の周知と販路開拓に努めました。6月にはベトナム・ホーチミン市で開催された同国最大級の建築系展示会「VIETBUILD 2025」に5回目となる出展を行い、お客様との商談機会の創出に取り組みつつ、当社商品の認知度向上を図りました。また、アトムCSタワーにて「KANAGU つなぐ 地域」伝統工芸支援プロジェクトを推進して積極的に新分野・異分野の開拓に努めました。なお、西日本市場の強化と深刻化する運送コストや、自然災害によるリスク分散など、BCP(事業継続計画)対策の一環として物流拠点の複数化を目的に運用している広島営業所・C/Dセンターにつきましては、管理運用する商品を徐々に増やしつつ、顧客満足・サービスの維持向上に努めております。

さらに情報システム戦略につきましては、当社の経営管理体制を支える受発注・管理システムを今後の変革にも対応可能なクラウド型システムに一新し、令和7年7月からの

運用開始に向けて準備を進めました。手作業中心だった業務をシステム入力に転換し、かつ旧システムをカスタマイズしたことなどで大幅に利便性が向上します。加えて第71期の11月より稼働している会計システムと併せて、営業・業務・現業の各部門とも同システムを最大限に活用して、営業効率と経営効率の向上に努めてまいります。

ホームページ内コンテンツ「atom動画ギャラリー」では、職人不足が続く建築現場を少しでも支援するため、施工方法の手順や、金物の調整方法等を確認できる動画コンテンツを拡充させました。このほか、アトムCSタワー内の展示商品の画像や一部商品の動画を閲覧できる「ショールームビュー」など、SNSを積極的に活用した販売支援ツールの拡充に努めました。

こうした取り組みの結果、当社の第71期業績は、売上高102億97百万円(前期比1.3%増)、営業利益5億15百万円(前期比54.6%増)、経常利益5億61百万円(前期比50.9%増)、当期純利益3億90百万円(前期比53.5%増)となり、利益面では令和7年1月30日付けで上方修正した通期業績見通しをさらに上回ることができ、この結果を受け、令和7年7月31日付けで第71期通期業績の上方修正を開示いたしました。このような業績を確保できた要因として、当社の主力商品に関連する設備投資を実現するなど、長期的に原価低減につながる取り組みを進めたほか、前述した商品戦略、市場戦略、情報システム戦略等の施策を有機的に結び付けた効果によるものと考えております。さらに、高騰した原材料価格を販売価格へ転嫁する活動が徐々に浸透してきたことで、営業利益以下、各利益段階において大幅な増益を達成することができました。

中長期観点からの取り組みについて

裾野の広い商品開発に取り組み、東南アジア市場においてはアトムブランドが浸透してきました。

◎ 第12次中期経営計画の進捗について

第12次ATOM中期経営計画におきましては、前中期経営計画のスローガンである「伝統を活かし、変革に挑む」を新たに企業スピリットとして設定し、「持続的成長に向けた新たな付加価値の創出」を基本方針として「ものづくり」の原点に立ち返り、商品の裾野の拡大と高収益型企業への回帰を実現してまいります。

初年度である第71期におきましては、市場の要望に応えるため内装金物(住まいの金物)全般に目を向けた裾野の広い商品を展開し、企画開発力に磨きをかけました。また、利益面も明確に改善しており、高収益型企業への回帰に向けて確かな手応えを感じております。さらにはベトナムでの

展示会に継続して出展している効果が徐々に表れ、「アトムブランド」が着実に浸透しており、東南アジア市場における新たなフレームワークの構築を目指した活動が計画通り進捗できています。これらの点から現時点で第12次中期経営計画は、持続的成長に向けた経営基盤の強化が順調に進んでいるものと評価しております。

株主の皆様へのメッセージ

**皆様との積極的な対話を通して
ご意見・ご要望を経営に反映させ、
株主利益の向上に努めてまいります。**

◎ 株主の皆様とのコミュニケーションについて

当社は会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るためには、株主の皆様と積極的な対話を通じてご意見やご要望を会社の経営に反映させ、株主の皆様とともにアトムブランドを成長させていくことが不可欠であると認識しております。このためホームページ内の「株主・投資家情報サイト」で投資判断に必要なタイムリーかつ適正な情報開示に取り組み、信頼性を高め、当社の経営戦略や事業環境に関するご理解を深めていただく活動を継続しております。今後ともさまざまなメディアを通じて積極的にIR活動を展開し、株主の皆様とのコミュニケーションを深めてまいります。

◎ 配当政策について

当社では、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率(ROE)の向上に努めるとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題として位置付け、積極的な配当の実現を基本方針に掲げております。第12次中期経営計画(第71期～第73期)における年間配当金につきましては、常に着実な株主還元を目指すべく「年間配当金は利益水準のいかに関わらず、最低でも1株当たり30円の配当を維持する」としてまいります。

第71期の配当金につきましては、上記方針ならびに業績を踏まえ、期末配当金を普通配当の1株当たり15円から1円50銭増額した16円50銭とし、中間配当金の1株当たり17円50銭(法人改組70周年の記念配当2円50銭を含む)と合わせて年間配当金を34円とさせていただきます。今後とも当社は、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 **高橋 快一郎**

東京・ベトナムで展示会を開催・出展

令和7年4月17日(木)～19日(土)にアトムCSタワーにて「春の新作発表会2025 in東京」を開催、6月25日(水)～29日(日)にはベトナムの「VIETBUILD 2025」に出展しました。展示会では、お客様には、新商品をはじめさまざまな商品に触れていただき、質感や操作感を確認いただきました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

なお、「春の新作発表会2025 in東京」は、アトムニュース221号にも掲載しておりますので、併せてご覧ください。

アトムニュース
221号は
こちらから



東京

「春の新作発表会2025 in東京」を開催

「春の新作発表会2025 in東京」では、室内の広い開口を仕切るのに最適な「シンクロ連動引戸」や「移動間仕切り」、「大型重量引戸」など、さまざまな建具の納まりのご提案を行いました。また、4月に発行された弊社総合カタログ「ATOM-DATA-LINE(2025-2027)」に掲載の新商品を、建具や家具に取り付けた状態で幅広く展示したことで、暮らしに寄り添った展示会となりました。



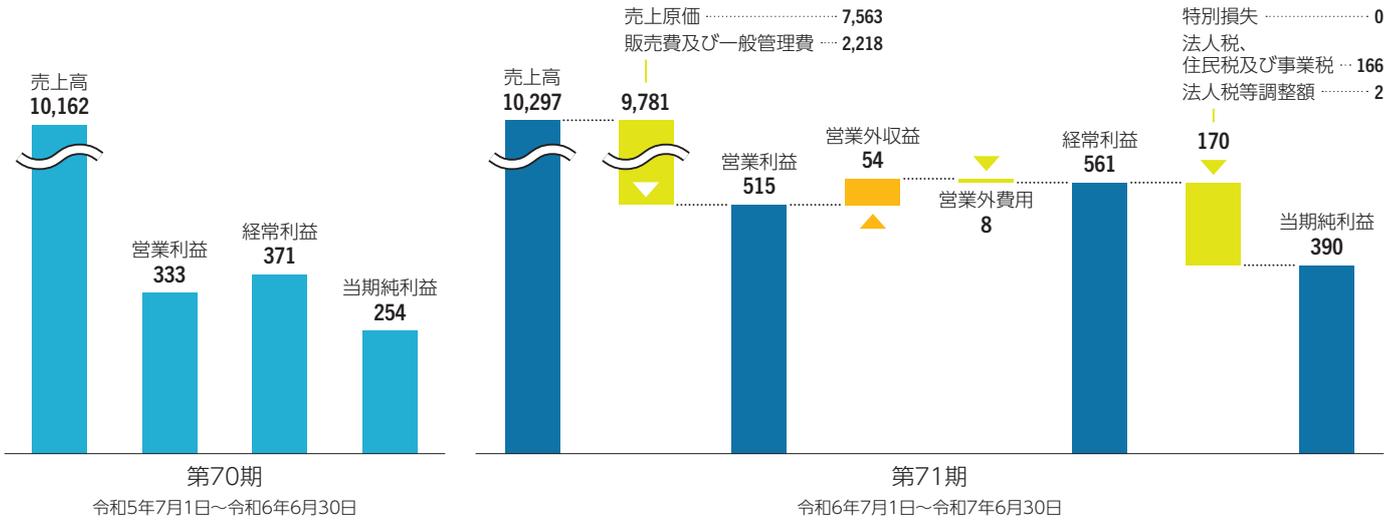
ベトナム・
ホーチミン

ベトナム最大級の建築系展示会「VIETBUILD 2025」に出展

今年の「VIETBUILD 2025」は降雨の影響もあり、昨年と比べると来場者数は減少しましたが、出展ブースを2コマから3コマへと増やし、引戸・折戸の実寸大の戸を取付けて展示を行った効果もあり、ブースに立ち寄っていただいた方々には、非常に興味深く熱心に説明を聞いていただきました。

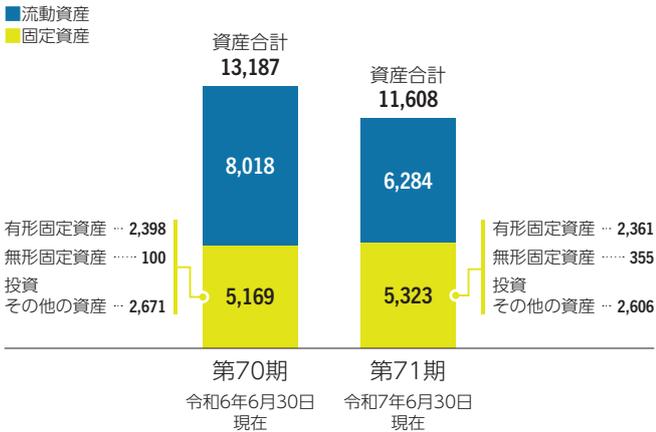


損益計算書の概要 (単位:百万円)

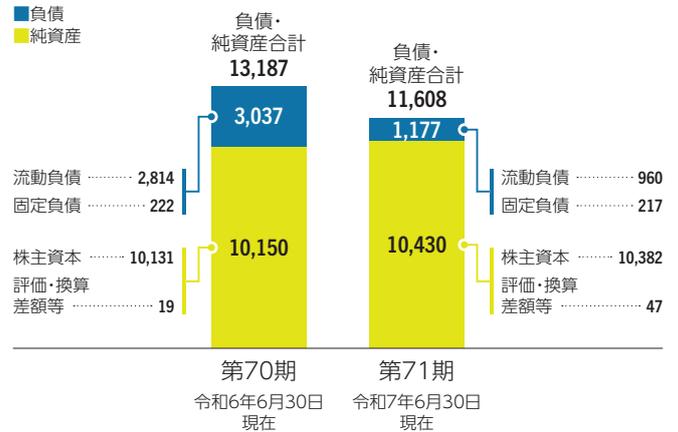


貸借対照表の概要 (単位:百万円)

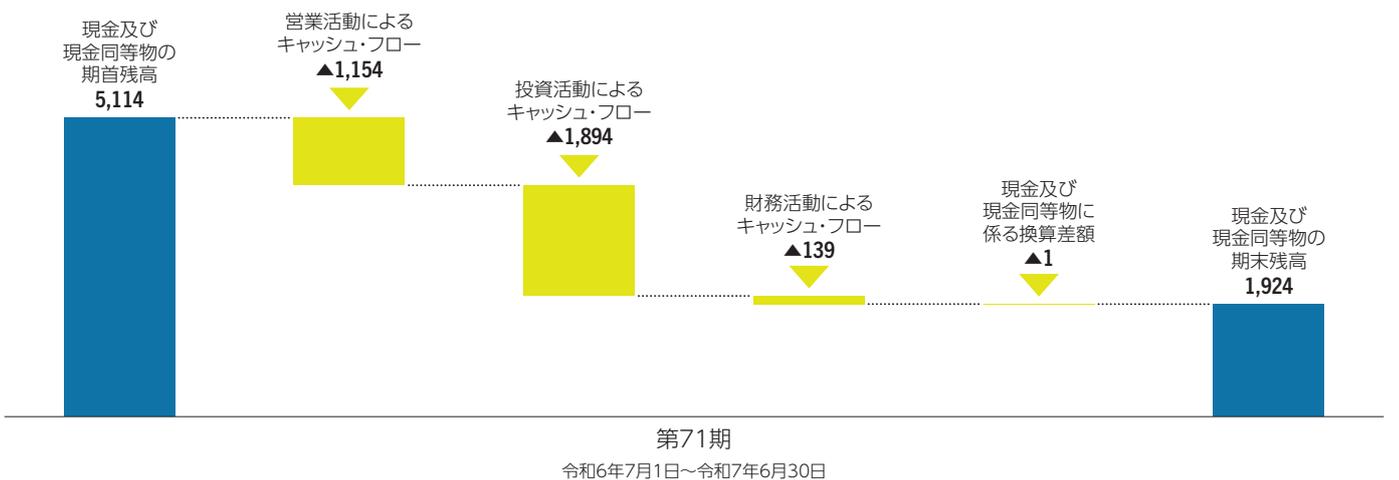
資産の部



負債・純資産の部



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)

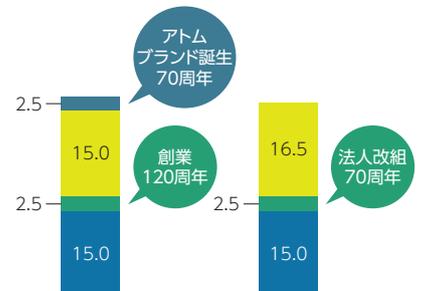


株主還元 (単位:円)

1株当たり配当状況

- 1株当たり期末記念配当
- 1株当たり中間記念配当
- 1株当たり期末配当
- 1株当たり中間配当
- 1株当たり期末特別配当

	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
1株当たり年間配当	33	33	34	35	34
配当性向	29.8%	31.9%	39.1%	54.8%	34.7%



株式の概要

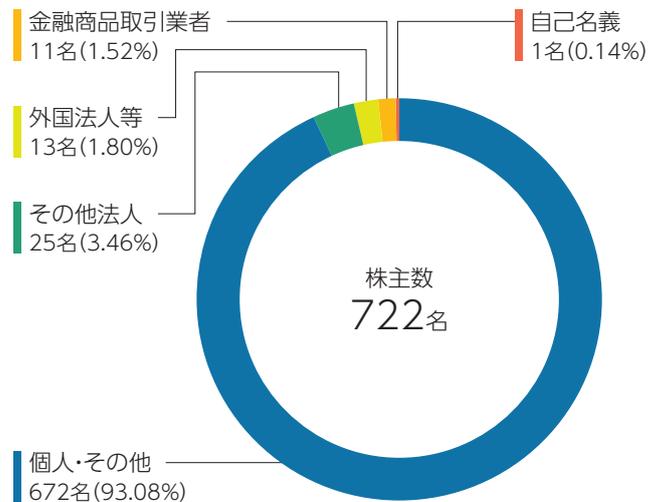
株式状況 (令和7年6月30日現在)

発行可能株式総数 15,420,000株
 発行済株式の総数 4,105,000株
 株主数 722名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
高橋 快一郎	790,000	19.24
アトムリビンテック従業員持株会	221,060	5.38
磯川産業株式会社	220,600	5.37
櫻井金属工業株式会社	162,200	3.95
高橋 壽子	157,000	3.82
アトムリビンテック株式会社	115,243	2.80
大塚 李代	83,800	2.04
岡崎 衛	81,300	1.98
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LIMITED - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION CLIENT A/C 8028-394841 (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カस्टディ業務部)	77,900	1.89

株主の所有者別分布状況 (令和7年6月30日現在)



会社情報

会社概要 (令和7年6月30日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社
 創業 1903年(明治36年)
 設立 1954年(昭和29年)10月
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、住まいの金物全般の企画・開発・販売
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行
 株式会社三菱UFJ銀行
 株式会社三井住友銀行
 従業員数 120名(嘱託5名・パート4名含まず)

役員 (令和7年9月25日現在)

代表取締役社長 高橋 快一郎	常勤監査役 金子 豊
常務取締役 山口 俊	監査役 小瀧 繁幸
取締役 池井 正彦	社外監査役 高島 良樹
取締役 関内 和貴	社外監査役 雨宮 弘和
社外取締役 山下 剛	

事業所一覧 (令和7年6月30日現在)

本社
 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600

アトムC/Dセンター(商品本部)
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号 TEL 048-922-5551

札幌営業所
 〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西1丁目1番地
 マルイト札幌ビル2階 TEL 011-281-3777

前橋営業所
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651

広島営業所・C/Dセンター
 〒733-0037 広島県広島市西区西観音町8番地6 TEL 082-291-4235

アトムCSタワー
 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号
 アーバンスタイル事業部 TEL 03-3437-3673
 ショップ&ショールーム垂吐夢金物館 TEL 03-3437-3440

アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281

海外拠点 (令和7年6月30日現在)

子会社: ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム社会主義共和国)
 子会社: 上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和国)



ギャラリーショップ

KANAGU

～職人技のある暮らしを、スローショッピングで。～

使ってみるとなんだかうれしい、ここちいい。
大切な誰かに贈りたくなる、ちょっといいモノ。
デザイン、素材感、仕上げの隅々まで職人のこだわりが詰まった逸品をセレクトしました。
毎日の暮らしに新しい風を運んでくれるような職人がつむぐ「モノ語り」を読みながらあなたのお気に入り、ゆっくり、じっくり見つけてください。



KANAGUとは

職人と職人の出会いから生まれたKANAGU。富山高岡の金属装飾に携わる職人たちとの出会いをきっかけとし、手仕事のぬくもりが伝わる作品をもっと紹介したいと思い、KANAGUは生まれました。美意識と技を持つ職人たちから受け取った熱き想いを「モノ語り」としてお伝えしていきます。

詳しくはこちらを
ご覧ください



<https://www.atomlt.com/cstower/category/shop>

唯一無二の音色 おりん

創業明治42年(1909年)、富山高岡の地で116年続くシマタニ昇龍工房。現在は4代目の島谷好徳さんが、先代や職人らと工房を守り古きものを手当てしながら新たな創造を手掛けています。



「昇龍」のおりんは、真鍮を百余りある金錠・木槌で叩き、炎に当てる焼き鈍しを幾度も繰り返す鍛金技法によって形づくられています。



全国で10人に満たない「おりん職人」が3人おり、「金錠で叩く」ことにより板を絞り、丸みを整え、音を調律することで作られています。



金錠で叩いては聴き、何度も繰り返すことによって、自然に手を合わせたくくなるような心が和む唯一無二の音色へと生まれ変わります。

シマタニ昇龍工房 「おりん」

サイズ：3寸、4寸、5寸、6寸

セット内容：おりん、ばい小、りん布団、おりん巾着、ばい巾着

商品情報は
こちらから



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主 確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

電子公告(当社のホームページに掲載いたします。)
<https://www.atomlt.com/ir/financial/koukoku/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。